



## 梅の香だより

令和8年10月1日  
ねづやま夢の学び舎  
世田谷区立梅丘中学校  
校長 石綿 健一郎  
令和8年度 第6号

### 9月を振り返って

今年の9月は例年以上に雨の多い月となりました。外での活動が制限されたり、登下校に傘が必要になったりと、例年より涼しいのはいいけれど…と思った人もあるかもしれません。10月は過ごしやすい天気になる予報です。だんだん秋が近づいてきていることを感じます。

さて、梅丘中学校の9月は、職場体験、生徒会役員選挙、定期考査と様々な活動がありました。職場体験では、学校の中だけでは体験できない様々な活動があったと思います。体験先の職場からは2年生の取り組み姿勢に多くのお褒めの言葉をいただきました。校外でもしっかりと活動ができるのは素晴らしいことです。ご協力をいただきました近隣施設、事業所、地域、保護者の皆様、ありがとうございました。

生徒会役員選挙では1・2年生を中心とした新生徒会役員会が発足しました。各委員会活動でも2年生が活動の中心となっていきます。より良い梅丘中を目指して、頑張ってください。

定期考査の結果も手元に届いてきているでしょうか。定期考査でも「振り返ること」が重要です。身に付いたことは何か、これからの課題は何か。点数も気になると思いますが、内容を振り返り次につなげていきましょう。

10月も合唱コンクールを始め、多くの活動が予定されています。体験を通して学ぶことはたくさんあります。よい体験をするためにもよい準備をすることを心掛けていきましょう。

### 世田谷区中学生平和学習広島派遣事業

世田谷区では令和8年度より、平和学習の一環として広島への派遣事業を行っています。派遣団には区内公立全中学校の2年生から代表が各校1名ずつ参加しています。本校代表生徒の作文を紹介します。

「私たちがつなぐ平和のバトン」

2年 派遣代表生徒

広島に行く前、教科書やニュースで戦争について見聞きすることはありましたが、自分自身の問題として深く受け止める機会はほとんどありませんでした。しかし、今この瞬間も被害にあっている方々がいることを知り、私も何か行動ができないかと思ったことが、広島について詳しく学ぶきっかけになりました。

現地での学びは二つあります。一つ目は「平和の本質」についてです。かつて日本は自国の利益を優先して戦争へ突き進み、原爆という甚大な被害を招きました。なぜ誰も止められなかったのでしょうか。政治家だけでなく普通に生きる私たち全員が意識を変えなければ、戦争は防げません。一人一人の強い意識こそが平和の基盤だと痛感しました。

二つ目は「原爆の残酷さ」についてです。私は原爆ドームを平和の象徴だと捉えていましたが、被爆者の方が、「見るのも嫌だ」とおっしゃるのを聞き、衝撃を受けました。見るだけで凄惨な記憶が蘇るほど、原爆は、大切な日常の全てを一瞬で消し去ってしまう残酷な兵器なのです。

被爆者の高齢化が進む今、私たちは「語り部」のバトンを受け取る最後の世代です。全く同じようには語れなくても、現地で肌で感じた残酷さと平和への願いを自分の言葉で周りに伝えていきます。この事実を私達で周りに広げ、確かな平和を次の未来へと一緒につないでいきたいと思っています。